

平成 29 年度埼玉県オハイオ州スカラシップ  
機械工学インターンシップコース レポート①  
「I am at Findlay USA」

はじめに

私は、平成 29 年度の埼玉県機械工学インターンシップコース奨学生として、オハイオ州フィンドレー大学に派遣されました浅海和也と申します。

はじめに、このような貴重な体験をさせていただくにあたり、ご尽力くださった埼玉県、オハイオ州、フィンドレー大学、Nissin Break Ohio、東京電機大学バイオメカトロニクス研究室 大西謙吾先生、並びに関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

このプログラムへ参加したのは、機械工学を専攻する私にとって今まで学んで来たことを生かすことができ、さらに実際の現場での経験を帰国後の研究へ生かせると考えたためです。また 2020 年には東京オリンピックも開催され、ますますグローバル化が進んでいくことから、実際にアメリカ合衆国で英語や文化の違いなどを肌で感じ、自分が日本と海外との架け橋になりたいと考えていたためです。

I am Oiler!

留学先であるフィンドレー大学は、生徒数 4000 人ほどの大学です。キャンパス内は非常に広く、リスなどの小動物がいたりとても過ごしやすいです。フィンドレー大学の学生たちは、自分たちのことを時折「Oiler」と呼びます。これはフィンドレーの地下深くには石油があることからつけられた名前とフィンドレー大学の教授が教えてくれました。私は IELP(Intensive English Language Program) という英語を集中的に学ぶクラスにて勉強をしています。中国や台湾、アラブやコロンビアの人たちと一緒に授業を受けています。こちらの授業は日本とは違い、教授と学生との間で会話をすることが非常に多く、わからないことや気になることなどは、その場ですぐ質問をしたり話をしたりします。もちろんすべて英語です！ また日本人の留学生や日本語を学んでいるフィンドレー大学の学生も多く、困った時にはお互い助け合いながら毎日を過ごしています。8/22 日にはアメリカでは 99 年ぶり大陸横断皆既日食がありました。アメリカのニュースでも大きく取り上げられました。教授も授業を早く終わらせてみんな揃って空を見上げ、日食を観測しました。



みんなで皆既日食を観測



キャンパス内にいるリス

## NBO でのインターンシップ

工場でのインターンシップも始まり、工場内の見学や昨年度までのプロジェクトの確認を行なっています。機械の動作音などのノイズが多く、また専門用語が多いため、大学の授業とは違い英語の聞き取りが難しく感じますが、積極的に発言し、間違いなどがないように常に心がけています。

NBO では液体の金属から成型(キャストイング)から機械でのバリ取りや穴の加工(マシニング)、組み立て(アッセンブリ)と全ての過程を行なっています。大学内ではなかなか触れることがないことが多く、とても勉強になります。しかし、先日機械の作業工程を撮影するためにカメラをセットしたのですが、取り付け位置と製作するパーツとの兼ね合いが悪く、カメラを破損させてしまいました。同じプログラムの雨野くんとともに、原因を探り次回以降どうするかを検討し、私たちの上司である Brian に報告しました。今回怪我もなくまた切削機械などの設備にも破損はありませんでしたが、これからはより一層リスクヘッジを行い事故がないように作業を進めていこうと思います。



NBO 小山社長と  
アドバイザーの方々